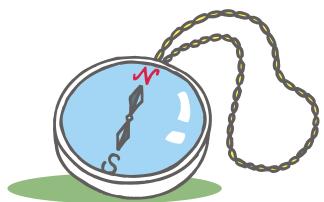


羅針盤

第23号

令和6年12月9日(月)



◆ シカの子

ある人権講演会での講話の一つとしてお話された内容を紹介します。お話のタイトルは「シカの子」です。そのお話とは、次のようなお話です。『かわいいシカの子が、一人で遊びに行きました。キリンが首を長くして笑いました。「ねえねえ、君の首は、どうしてそんなに短いの?」シカの子は、首が短いことが悲しくなりました。すると、ネズミが後ろの方で笑います。「首が短いのは仕方ないけれど、いったい君のしっぽはどこにあるの?」シカの子は、しっぽが短いことが悲しくなりました。次に、そばで聞いていたクマが、言いました。「お前の毛は、どうしてそんなに短いんだい?バリカンでも刈り取られてしまったのかい?」シカの子は、毛が短いことが悲しくなりました。2匹のロバが、長い耳を立てて言います。「まあ、このシカの子の耳の小さいこと、なんてみっともないんだろう?」シカの子は、耳が小さいことが悲しくなりました。みんなから笑われて馬鹿にされたシカの子は、涙をいっぱいいためながら、お母さんのシカのところへと帰って行きました。お母さんのシカは、小鹿を優しくなめてやりながら、こう言いました。「悲しがらなくてもいいんだよ。みんなの言うことを、すべて聞いて、実際にその通りになってごらん。それは、それは見苦しいケモノになってしまいますよ。お前は、私のとってもかわいいシカの子だよ。わかりましたね。』この話の中で、シカの子が、キリンやネズミ、クマ、ロバから言われたことを生徒の皆さんはどうに捉えたでしょうか。「首が短い」と言われたこと、「しっぽはどこにあるの」と言われたこと、「毛が短い」とか「バリカン刈り」と言われたこと、また、「耳が小さい」と言われたことは、シカの子にとっては生まれながらの形質であり、自分自身では変えようのない特徴です。でも、これらのこと全ては、シカにとっては悲しむべきことでもなければ、他の動物から比べて言われるべきことでもないはずです。このお話を私たち一人ひとりに置き換えて考えてみれば、どうなるでしょうか。「顔が大きい」とか、「目が小さい」、あるいは、「背が低い」など、友だちの体の特徴をとりあげて馬鹿にしたりするようなことをしていないでしょうか。言われた人は、まさにシカの子であり、言った人たちは、キリンや、ネズミ、クマ、そして、ロバであったりするのではないかでしょうか。このお話では、お母さんのシカが、「悲しがらなくてもいいんだよ。お前は、私のとってもかわいいシカの子だよ。」とシカの子を諭すように言います。今ある姿、それこそが本来の「シカの姿」であり、言われるがままの「首やしっぽや毛が長く、耳の大きなシカ」の姿は間違ったケモノの姿であるということです。



とあります。まど・みちおさんが作詞された童謡「ぞうさん」では、「ぞうさん ぞうさん お鼻が長いのね そうよ 母さんも長いのよ」と歌われています。この歌詞の中で「お鼻が長いのね」と言われたゾウの子は「一番好きなお母さんもお鼻が長いのよ」と答えています。このことは、ゾウの子は鼻が長いことを悲しんだりするのではなく、逆に鼻が長いことに誇りをもって、さらには、他の動物と比べることなく共に生きていこうという力強さが伝わってくる詩ではないかと思います。生徒の皆さんもお互いの容姿や考え方の違いなどをしっかりと理解しあって、多くの仲間と有意義な学校生活を過ごしていくことに自信をもって成長してほしいと願っています。

